

先 月に続き大奈路。
小学校跡の南向かいに萬松山長
生寺というお寺がある。このお寺は昭和
26年からしばらくの間、大奈路地区の保
育園になっていた。当時は、役場の課長
が園長を兼務。普段は役場について、時々

園を訪れるという具合だったらしい。ここ
に園児として通っていたという方のお話に
よれば、課長、つまり園長先生が来た時
には「えんちようせんせい、こんにちばー」
というフレーズの歌を、みんなで歌ったの
だという。



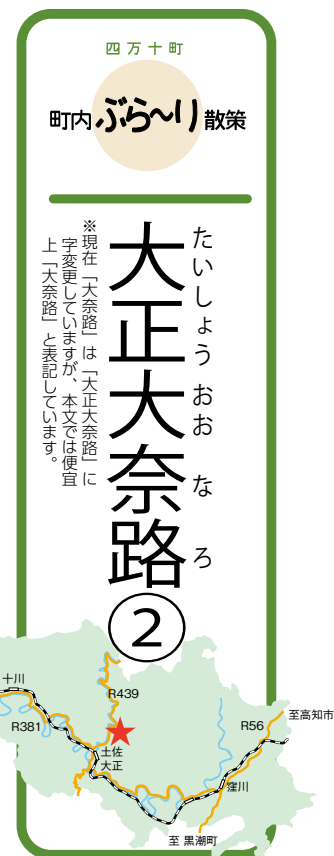
大奈路は下津井の下流にある。下津
井といえば、旧上山村の中でも最大規
模の「お留山」があったところである。
これまで何度か書いたが「お留山」と
は、高品質の木材の供給地として、藩
の管理下にあった山林である。お留山
は、明治以降は官林、そして国有林
となり、近代に入っても、良質の木材
が切り出され続けた。下津井のお留山
の広大さからすると、櫛原川流域一帯
が、そうであつたと言つてよい。したがつ
て、ここ大奈路にも「お留山」があり、
林業に従事する人は多かった。森林軌
道が整備されるまでは、切り出された
木材は、中村の下田まで、櫛原川から
四万十川へと、筏を組んで流された。
切り出された木材を川に落とし、それ
らを蔓などをロープがわりにしてくく
りつけ筏を組まねばならないのだが、
津賀ダムができる前のことである。櫛
原川の水量も豊富で流れが速い。流れ
が急だと筏組の作業ができない。しか
し、ここ大奈路には、流れが緩やかな
淵があり、その淵の少し上で流れを堰
き止めて木材を集め（「筏返し」と呼
ばれた）、一本ずつ淵へと送って、そこ
で筏を組む作業が行われたという。そ
して、組まれたいくつもの筏を、縦に
つなげ、まるで列車のようにして流し
ていった。もちろん無人ではない。な
んと、数人の「操縦士」が筏の上に立
ち、遙か下流の下田まで筏を操つて行つ
たのである。この「筏流し」の他にも「管
流し」と言われる方法もとられた。管流
しとは、木材を筏のように組まず、その
まま「バウ」で流すもので、大量に出荷
していくために、止むを得ずに行われた。
大奈路には、この筏流しや管流しの「操
縦士」が多かったそうだ。

大奈路には「七ヶ所参り」という風習
が残っている。始まりは、幕末か明治初
期ではないかと言われているが定かではな
い。その頃、大奈路村で蔓延した疫病を
収束させるため、村人が、四国八十八箇
所の中から七ヶ所を選び巡礼した。これ
は今も続いている。七ヶ所のチョイスは毎
年変わり、地区の人が輪番制で行くこと
になっているのだと聞いた。

さて、八足。大奈路の街から中津川を
少し遡ったところの両岸に拓けた集落で、
街部から移り住んだ人々によって形成さ
れたのであろうと思いきや、こちらの方
が先に拓けたのではないかという説があ
る。開拓者は、大方の白田川村から来た
人で、武政新左衛門という名であつたと
いう。地区には、小規模ではあるが縄文
土器片が出土した遺跡もあり、古代人が
住んでいたことはわかつてる。

そして、古味野々。古味野々＝小味野々
とは、小さな原野という意味らしい。対
岸は下道。下道と古味野々の間に津賀ダ
ムがまたがっている。津賀ダムは、「古味
野々ダム」とも呼ばれ、昭和15年にその
工事が始まった。終戦後、一時工事は中
断されたが、同26年に完成した。ところで、
古味野々がなぜ飛び地として大奈路集落
に属したのかはわからない。

大奈路には「七ヶ所参り」という風習
が残っている。始まりは、幕末か明治初
期ではないかと言われているが定かではな
い。その頃、大奈路村で蔓延した疫病を
収束させるため、村人が、四国八十八箇
所の中から七ヶ所を選び巡礼した。これ
は今も続いている。七ヶ所のチョイスは毎
年変わり、地区の人が輪番制で行くこと
になっているのだと聞いた。



大奈路には「七ヶ所参り」という風習
が残っている。始まりは、幕末か明治初
期ではないかと言われているが定かではな
い。その頃、大奈路村で蔓延した疫病を
収束させるため、村人が、四国八十八箇
所の中から七ヶ所を選び巡礼した。これ
は今も続いている。七ヶ所のチョイスは毎
年変わり、地区の人が輪番制で行くこと
になっているのだと聞いた。

大奈路には「七ヶ所参り」という風習
が残っている。始まりは、幕末か明治初
期ではないかと言われているが定かではな
い。その頃、大奈路村で蔓延した疫病を
収束させるため、村人が、四国八十八箇
所の中から七ヶ所を選び巡礼した。これ
は今も続いている。七ヶ所のチョイスは毎
年変わり、地区の人が輪番制で行くこと
になっているのだと聞いた。

さて、八足。大奈路の街から中津川を
少し遡ったところの両岸に拓けた集落で、
街部から移り住んだ人々によって形成さ
れたのであろうと思いきや、こちらの方
が先に拓けたのではないかという説があ
る。開拓者は、大方の白田川村から来た
人で、武政新左衛門という名であつたと
いう。地区には、小規模ではあるが縄文
土器片が出土した遺跡もあり、古代人が
住んでいたことはわかつてる。

そして、古味野々。古味野々＝小味野々
とは、小さな原野という意味らしい。対
岸は下道。下道と古味野々の間に津賀ダ
ムがまたがっている。津賀ダムは、「古味
野々ダム」とも呼ばれ、昭和15年にその
工事が始まった。終戦後、一時工事は中
断されたが、同26年に完成した。ところで、
古味野々がなぜ飛び地として大奈路集落
に属したのかはわからない。

大奈路には「七ヶ所参り」という風習
が残っている。始まりは、幕末か明治初
期ではないかと言われているが定かではな
い。その頃、大奈路村で蔓延した疫病を
収束させるため、村人が、四国八十八箇
所の中から七ヶ所を選び巡礼した。これ
は今も続いている。七ヶ所のチョイスは毎
年変わり、地区の人が輪番制で行くこと
になっているのだと聞いた。

さて、八足。大奈路の街から中津川を
少し遡ったところの両岸に拓けた集落で、
街部から移り住んだ人々によって形成さ
れたのであろうと思いきや、こちらの方
が先に拓けたのではないかという説があ
る。開拓者は、大方の白田川村から来た
人で、武政新左衛門という名であつたと
いう。地区には、小規模ではあるが縄文
土器片が出土した遺跡もあり、古代人が
住んでいたことはわかつてる。



町のうごき	(7月31日)	人口	前月比	出生 死亡 転入 転出				
	男	7,615	1	男	7	15	15	6
	女	8,302	1	女	1	12	17	5
	計	15,917	2	計	8	27	32	11
	世帯数	8,196	4	(7月中の届出)				
	窪川地域	11,303人	大正地域	2,208人	十和地域	2,406人		

四万十川の 水質状況	適正值(mg/l)	
	リン酸	四万十高校自然環境部の都合によりしばらくの間調査を休止します。
	硝 酸	
	アンモニウム	
	アニオン活性剤	
	化学的酸素要求量	
調査：大正（吾川） 資料：四万十高校自然環境部		